

病虫害発生予報 第 8 号 (11 月予報)

和歌山県農作物病虫害防除所

< 予報の概要 >

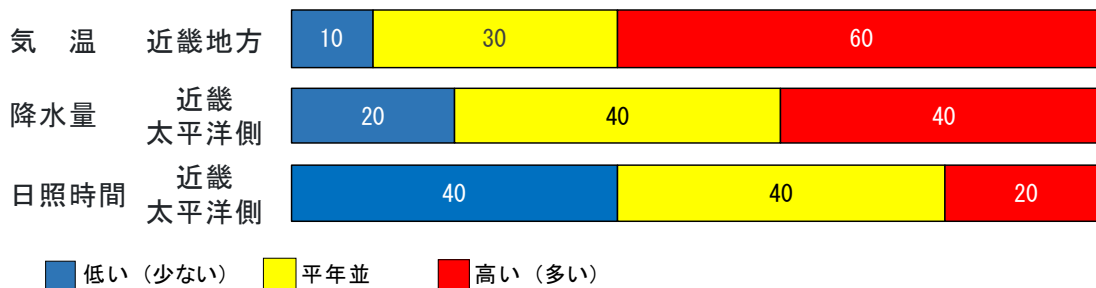
作物名	病虫害名	発生量	作物名	病虫害名	発生量
エンドウ	褐斑病、褐紋病	やや少	野菜・花 き全般	シロイチモジヨトウ	多
	うどんこ病	並		ハスモンヨトウ	県北部：やや多
	つる枯細菌病	並		オオタバコガ	県中部：並
	ハダニ類	やや少			県北部：やや多
ハクサイ キャベツ	ウラナミシジミ	並	カンキツ	果実腐敗病	やや多
	黒斑細菌病	並		ミカンハダニ	多
	アブラムシ類	やや多		カメムシ類	多
	コナガ	並			
	ヨトウガ	並			

気象予報

近畿地方 1 か月予報 (10/25～11/24)

2025年10月23日14時30分 大阪管区气象台 発表		
向こう1か月 10/25～11/24	天候	近畿日本海側では、期間の前半は、天気は数日の周期で変わるでしょう。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。近畿太平洋側では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。
	気温	平均気温は、高い確率60%です。
	降水量	降水量は、近畿太平洋側で平年並または多い確率ともに40%です。
	日照時間	日照時間は、近畿太平洋側で平年並または少ない確率ともに40%です。
1週目 10/25～10/31	気温	1週目は、高い確率50%です。
2週目 11/01～11/07	気温	2週目は、高い確率60%です。
3～4週目 11/08～11/21	気温	3～4週目は、高い確率70%です。

向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)



I. 野菜・花き

<エンドウ>

1. 褐斑病、褐紋病

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培における 10 月中旬の発生ほ場率は 0%（平成：発生ほ場率 15%、発病葉率 0.5%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 多湿ほ場で発生しやすいので、排水を良くする。

② 施設栽培では、降雨が多いと予想される場合は早めにビニル被覆を行う。

③ 薬剤の予防散布に努める。

④ 種子伝染するので、発生ほ場では採種しない。

2. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培における 10 月中旬の発生ほ場率は 0%（平成：発生ほ場率 4%、発病葉率 0.1%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 施設栽培では、低温期でも乾燥すると発生しやすい。

② 下位葉に病斑を認めたら薬剤散布を行う。

3. つる枯細菌病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培における 10 月中旬の発生ほ場率は 0%（平成：発生ほ場率 1%、発病葉率 0.0%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 本病は、褐斑病、褐紋病と葉の病斑が似ているので注意する。褐斑病、褐紋病の病斑は日光に透かしても不透明であるのに対し、本病は光が透けて見えることで区別できる。

② 防風ネットは予防効果が高い。

③ 種子伝染するので、発生ほ場では採種しない。

4. ハダニ類

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 県中部における 10 月中旬の発生ほ場率は 13%（平成 27%）、生息株率は 3.3%（平成 11.8%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 薬剤散布にあたっては薬液が葉裏に十分かかるように行う。

5. ウラナミシジミ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部における 10 月中旬の被害発生ほ場率は 73%（平成 69%）、被害株率は 25.5%（平成 25.6%）であった。被害さや率は 14.4%（平成 8.3%）、1 花あたりの産卵数は 0.29 個（平成 0.24 個）であった。

- ② 11月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 食入加害されたさやは、ほ場の外に持ち出し処分する。
 - ② 主な産卵部位である花や蕾に薬液が十分かかるよう、7～10日間隔で防除を行う。

＜ハクサイ、キャベツ＞

1. 黒斑細菌病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部のハクサイ、キャベツにおける10月中旬の発生ほ場率はいずれも0%（平年：ハクサイ0%、キャベツ0%）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 降雨前に薬剤を予防散布する。

2. アブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部のキャベツにおける10月中旬のモモアカアブラムシの発生ほ場率は70%（平年16%）、生息株率は7.0%（平年2.3%）、ニセダイコンアブラムシの発生ほ場率は40%（平年26%）、生息株率は3.5%（平年6.3%）であった。
 - ② 黄色水盤（紀の川市）への10月1～20日の飛来数は、42頭（平年41.9頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 薬剤散布にあたっては薬液が株元の葉裏に十分かかるように行う。

3. コナガ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部のキャベツにおける10月中旬の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率7%、10株あたり生息密度0.0頭）であった。
 - ② フェロモントラップによる10月1～20日の誘殺数は、和歌山市88頭（平年62.3頭）、紀の川市0頭（平年0.2頭）であった。
 - ③ 11月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。

4. ヨトウガ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部のキャベツにおける10月中旬の発生ほ場率は10%（平年4%）、生息株率は0.5%（平年0.5%）であった。
 - ② フェロモントラップによる10月1～20日の誘殺数は、紀の川市0頭（平年8.1頭）であった。
 - ③ 11月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 発生初期の若齢幼虫の防除に努める。

<野菜・花き全般>

1. シロイチモジヨトウ

(1) 予報内容 発生量 多

(2) 予報の根拠

- ① 県北部のキャベツにおける 10 月中旬の発生ほ場率は 50%（平成 10%）、生息株率は 7.5%（平成 0.7%）であった。
- ② 県中部のエンドウにおける 10 月中旬の発生ほ場率は 20%（平成 5%）、生息株率 2.0%（平成 0.5%）であった。
- ③ フェロモントラップによる 10 月 1～20 日の誘殺数は、紀の川市 182 頭（平成 37.5 頭）、御坊市 119 頭（平成 77.0 頭）であった。
- ④ 11 月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 幼虫が中～老齢期になると薬剤感受性が著しく低下するので、若齢期（ふ化幼虫の集団の食害による白変葉がみられたとき）の防除を心がける。
- ② 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。
- ③ 令和 7 年度病害虫防除技術情報第 7 号（令和 7 年 10 月 24 日発表）を参照する。

2. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容 発生量 県北部：やや多
県中部：並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部のキャベツにおける 10 月中旬の発生ほ場率は 50%（平成 24%）、生息株率は 5.0%（平成 3.5%）であった。
- ② 県中部のエンドウにおける 10 月中旬の発生ほ場率は 13%（平成 20%）、生息株率は 2.0%（平成 3.4%）であった。
- ③ フェロモントラップによる 10 月 1～20 日の誘殺数は、和歌山市 4,309 頭（平成 2,194 頭）、紀の川市 634 頭（平成 1,161 頭）、御坊市 1,623 頭（平成 3,165 頭）であった。
- ④ 11 月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① シロイチモジヨトウに準ずる。
- ② 令和 7 年度病害虫防除技術情報第 7 号（令和 7 年 10 月 24 日発表）を参照する。

3. オオタバコガ

(1) 予報内容 発生量 県北部：やや多
県中部：並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部のキャベツにおける 10 月中旬の発生ほ場率は 30%（平成 13%）、生息株率は 4.0%（平成 1.1%）であった。
- ② 県中部のエンドウにおける 10 月中旬の発生ほ場率は 7%（平成 9%）、生息株率 0.7%（平成 1.4%）であった。
- ③ フェロモントラップによる 10 月 1～20 日の誘殺数は、紀の川市 55 頭（平成 44.8 頭）、御坊市 37 頭（平成 49.1 頭）、印南町 343 頭（平成 49.9 頭）であった。
- ④ 11 月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 中～老齢幼虫に対する薬剤の防除効果は低いので、若齢幼虫期に防除するよう努める。

- ② 令和 7 年度病虫害防除技術情報第 7 号（令和 7 年 10 月 24 日発表）を参照する。

Ⅱ．果 樹

＜カンキツ＞

1. 果実腐敗病（緑かび病、青かび病）

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における 10 月中旬のウンシュウミカン樹上果実の緑かび病発生ほ場率は 18%（平成 11%）であった。

② 11 月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 樹上の発病果や、これに接触している果実は速やかに除去する。

② 収穫前の薬剤散布を励行する。

③ 果実は丁寧に取り扱い、果面に傷をつけない。

2. ミカンハダニ

(1) 予報内容 発生量 多

(2) 予報の根拠

① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における 10 月中旬の発生ほ場率は 64%（平成 12%）、発生葉率は 20.0%（平成 2.0%）であった。

② 11 月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 収穫前の薬剤散布は使用基準に特に留意する。

② 収穫時期まで袋かけを行う品種では袋かけ前に発生状況を確認し、必要に応じて薬剤散布を行う。

③ 薬剤抵抗性の発達を遅らせるため、同一系統の薬剤は年間に 2 回以上使用しない。

3. カメムシ類

(1) 予報内容 発生量 多

(2) 予報の根拠

① 紀の川市粉河の予察灯による 10 月 1～20 日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが 5,220 頭（平成 195 頭）、ツヤアオカメムシが 1,308 頭（平成 304 頭）であった。

② 有田川町奥の予察灯による 10 月 1～20 日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが 1,743 頭（平成 94 頭）、ツヤアオカメムシが 1,841 頭（平成 446 頭）であった。

③ みなべ町東本庄の予察灯による 10 月 1～20 日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが 550 頭（平成 452 頭）、ツヤアオカメムシが 7,993 頭（平成 5,447 頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① ほ場内での発生及び被害状況をよく観察し、発生に応じて防除を行う。

② 発生がみられるほ場で薬剤散布する場合は、収穫期の散布となるので使用基準に十分注意する。

本情報は、下記の方法でもご覧頂けます。

○鳥獣害対策課ウェブページ <農作物病虫害防除所>

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/072000/d00216368.html>

○和歌山県ホームページ <わかやま県政ニュース>

<http://wave.pref.wakayama.lg.jp/news/kensei/>

※詳しくは、農作物病虫害防除所の各担当までお願いします。

水稲、野菜、花き

本所（紀の川市、農業試験場内）

TEL 0736-64-2300

カンキツ

有田川駐在（有田川町、果樹試験場内）

TEL 0737-52-4320

カキ、モモ

紀の川駐在（紀の川市、果樹試験場かき・もも研究所内）

TEL 0736-73-2274

ウメ

みなべ駐在（みなべ町、果樹試験場うめ研究所内）

TEL 0739-74-3780